以下の問題文A・B・Cを読んで、次の問いに答えなさい（解答は縦書き。句読点・括弧も一字分として計算する）。

問〔一〕　傍線部①のように考えられる理由を、四〇〇字程度で述べなさい。（八〇点）

問〔二〕　傍線部②及び③に書かれている事情は、「持続可能な観光」を目指す上で、どのように考慮されることになるか。弱い持続可能性、及び、強い持続可能性のそれぞれの立場から検討し、八〇〇字程度で説明しなさい。（一二〇点）

［問題文］

（問題文略 後掲［注意］参照のこと））

［注意］

問題文Ａ：吉永明弘「環境倫理学の歴史と背景――沈黙の春からＳＤＧｓまで」吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』（昭和堂、二〇二〇年）。

問題文Ｂ・Ｃ：紀平知樹「エコツーリズムと環境倫理――環境と観光の交差点から」吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』（昭和堂、二〇二〇年）。

なお、問題文とするに際し、省略し、また表記を改めたところがある。

また，問題文末尾の参考文献は，World Tourism Organization (WTO) 2002. The World Ecotourism Summit Final Reportを指す。